小田原市制施行記念講話資料

おだわら

小田原市教育研究所

令和３年12月

市紋章の由来

小田原は昔から梅の名所として知られ，また相模湾に面して漁業が盛んです。これらの地方色を表すため，波頭で梅の花を形づくり市の紋章としました。

（昭和16年懸賞募集により採用）

小田原市民憲章（昭和51年７月20日制定）

わたくしたちは，黒潮おどる相模灘にのぞみ，梅の香におう天守閣をあおぐ「小田原」の市民です。

わたくしたちは，先人の残した文化を誇りにし，西湘の近代都市としての限りない発展に願いを込めて，ここに市民憲章を定めます。

1　健康で明るい生活を大事にし，豊かな心をそだてましょう。
1　元気で働くことを喜び，しあわせな家庭をきずきましょう。
1　隣人と仲よくし，だれにもやさしく親切にしましょう。
1　きまりを守り，力をあわせ，住みよいまちをつくりましょう。
1　緑と水を大切にし，平和な明日の繁栄につとめましょう。

市の木「くろまつ」

［昭和51年7月20日制定］

市の花「うめ 」

［昭和51年7月20日制定］

市の鳥「コアジサシ」

［平成7年8月1日制定］

市の魚 淡水魚「メダカ」

［平成13年3月1日制定］

市の魚 海水魚「アジ」

［平成13年3月1日制定］

Ⅰ　市　勢

１　位　置

本市は，神奈川県西部に位置し，市庁舎は北緯３５度１５分５３秒，東経１３９度９分８秒にあり，市域は，東西１７．５㎞，南北１６．９㎞で，南西部は真鶴町，湯河原町，箱根町と，北部は南足柄市，開成町，大井町と，東部は中井町，二宮町とそれぞれ境を接している。

面積は，１１３．６０㎞^{2} で，神奈川県の面積の ４．７％を占め，県下の市では横浜市，相模原市，川崎市に次いで４番目の広さを有している。

また，東京から新幹線で４０分，８３．９㎞，新宿から小田急線で７０分，８２．５㎞の距離にある上に，背後に富士箱根伊豆国立公園を控えて交通の要衝として大きな役割を持っている。特に，鉄道交通の面では，東海道本線を始め新幹線，御殿場線，小田急線，大雄山線，箱根登山線の結節点であり，合わせて１８の駅を有している。

２　沿　革

鎌倉時代まで

小田原は古い歴史を持つ都市である。小田原の地名が歴史上に現れてくるのは平安末期から鎌倉初期の武家が勃興した時代で，武家は多数の兵馬を養うため，それまで顧みられなかった荒地を開拓して，水田や牧原を作った。そのようなところを田原と呼び，その地域の大小によって大田原，小田原と呼んだところから，その名が起こったといわれている。

しかし，鎌倉時代の頃は，まだ旅人の泊まる宿もないさびしい農漁村にすぎなかった。

室町時代

小田原の名が特に顕著になったのは,室町時代の約５３０年前に北条早雲がここに城をかまえてからである。伊豆韮山にいた早雲は，明応４年に当時小田原地方を支配していた大森氏に夜討ちをかけ，あいついで大森藤頼を真田城（平塚市）に追い，相模一国を支配下においた。その子氏綱は，相模から武蔵へ進出し，さらにその子氏康の代には，関東地方の支配体制を充実させた。北条氏は，氏康の時代を頂点として，５代９５年間，関八州に采配を振るい，小田原はその政治・経済・文化の中心として繁栄した。この間，上杉謙信，武田信玄とあいついで小田原を攻めたが追い返されている。

北条時代の産業の発展を示すものとして，まず，鍋・釜・大筒（大砲）をつくる鋳物師，刀鍛冶，甲冑製作，石切，紺屋等の保護や市場の設定がみられ，また，明との交易を行ったとみられる。学問については，「早雲寺殿２１か条」の中に『少しの暇もあらば物の本を懐に入れ，常に人目を忍んで見よ』といい，『文を左にし武を右にすべし』と結んでいる。

江戸時代

天正18年の豊臣秀吉の小田原攻めにより北条氏は滅び，大久保氏の封地となり（藩主大久保忠世），その後，徳川幕府直轄の番城時代，阿部，稲葉氏の時代が続き，再び大久保時代を迎えた。以来明治維新に至るまで，安定した藩政とともに，城下町として，また番城時代に新官道（旧東海道）が設けられたことにより，東海道屈指の宿場町として人馬

１００人，　１００匹を置き，宿場（本陣・脇本陣・旅篭）の総数８１軒を数え隆盛を極めた。すなわち，江戸時代の小田原は，藩政の中心としての城下町と東海道宿駅としての宿場町との二面をもっていたといえる。

大久保氏の藩主の中で，名君といわれたのは忠真である。彼の人材登用には注目すべきものがあり，領内においては二宮尊徳を用い，衰えた農村を復興させることに努力した。また，藩校「集成館」を創設し，人材養成に力を注いだことも見逃せないことである。

明治時代

明治維新を迎え様相は一変した。幕府の大政奉還に伴い，小田原藩も版籍を奉還，明治４年に小田原藩のあとに小田原県が置かれ，ついで足柄県庁，明治９年に神奈川県小田原支庁の設置ののち，明治22年に町制を施行，小田原町となった。

小田原は，気候，風景も良く，箱根に近く位置するので，明治20年に東海道線が国府津まで，翌21年に国府津・湯本間に馬車鉄道が開通し，京浜地方との距離を縮めたのをきっかけとして，避暑・避寒の保養地，別荘地となった。明治21年に御幸の浜に鴎盟館という料亭をかねた旅館が開業し，23年には伊藤博文の別荘滄浪閣が御幸の浜（現 小田原市本町）に建った。ここに小田原は，明治維新以来の沈滞から脱出し，温泉・観光の地箱根の玄関口として，また，保養地，別荘地として，再び脚光を浴びたのである。

その後，明治34年に小田原城跡に御用邸が建てられ，明治天皇の皇女常宮，周宮がしばしばご滞在なされ，大正天皇も皇太子時代によくご利用なされた。また，山県有朋が板橋丘陵に別荘古稀庵を建てたり（明治40年），北原白秋等文士や実業家，軍人の別荘も多く建てたりした。

国府津おりれば馬車ありて　　酒匂小田原遠からず
箱根八里の山道も　　あれ見よ雲の間より

有名な「鉄道唱歌」にこのように歌われた馬車鉄道は，明治33年にこの線を利用した電車が開通することにより姿を消した。また，明治29年に，小田原・熱海間に人車鉄道も開通し，明治39年に軽便鉄道となった。さらに，大正９年には，熱海線が小田原まで開通し，その後，昭和９年丹那トンネルの完成により，これが東海道本線になるにおよんで，小田原は再び県西における交通の要衝として脚光を浴びるようになった。

昭和15年（市制施行）

発展の度が増すにつれて昭和15年12月20日には近隣の足柄町・大窪村・早川村・酒匂村の一部，１町３村と合併し市制を施行，ここに人口５万５千人の小田原市が誕生した。

市域の進展はその後も続き，昭和31年４月までの間に下府中村，桜井村，豊川村，上府中村，酒匂町，国府津町，下曽我村，片浦村及び曽我村の一部，昭和46年４月１日橘町を合併し，面積１１４．２４km^2，人口１６万４千人を数える都市に発展した。

市域の発展に伴い，産業・文化・交通面でもめざましい発展を遂げた。戦後は終わったといわれた昭和30年代には，市内の大工場誘致が進められ，それが本市の飛躍的な発展の基盤の一つとなった。また，昭和35年には小田原市のシンボルである小田原城天守閣も復興され，交通の要衝として東海道新幹線*も停車することになった。

さらに昭和40年代以降は，小田原漁港の完成と，新港の建設，小田原・厚木道路と西湘バイパスの開通，鴨宮新貨物駅（西湘貨物駅）の操業開始，東海道本線の複複線化，小田原駅東口広場の整理，中央公民館の完成等，県西における中核都市として発展するための条件整備が，多方面にわたって推進された。

*鴨宮駅南口にある「新幹線発祥之地」記念碑は昭和37～39年東海道新幹線の実地試験を行っていた「モデル線（綾瀬～小田原）」の「モデル線鴨宮基地」に由来する。

２１世紀のまちづくり

平成７年６月には人口が20万人を超え,神奈川県西部地域の中核都市として着実な発展を続けている。

21世紀に向けたまちづくりの指針として，昭和61年に総合計画「おだわら21世紀プラン」を策定し，恵まれた自然風土，歴史的文化遺産，優れた交通・立地条件を生かしたまちづくりを進めてきた。平成５年には，「きらめく城下町・おだわら」の創造をメインテーマとする「おだわら21世紀プラン」後期基本計画を策定し，生き生きとした躍動感あふれる城下町の創造をめざし，総合的かつ効率的なまちづくりに取り組んできた。

平成10年４月には，まちづくりの最も基本的で，長期的な指針となる総合計画「ビジョン２１おだわら」がスタートした。21世紀を目前に控え，地球的規模での環境問題や少子高齢化の進展，産業構造や人々の価値観が急激に変化している時代の大転換期に，未来をしっかりと見据えた計画を策定し，次の世代に，私たちが誇りを持てるふるさと小田原を引き継いでいこうという決意が込められた名称であった。

平成12年には市制60周年を迎えるとともに、４月１日の地方自治法第252条の26の３第１項の特例市の指定に関する政令（政令第417号）が施行され，これにより，小田原市をはじめ，全国10市が，平成12年11月１日から特例市へ移行した。（地方自治法の改正により（平成26年５月23日成立）特例市が廃止されたことから，小田原市は施行時特例市となった）

平成23年には，これからの小田原のまちづくりの指針となる新たな総合計画「おだわらTRYプラン」がスタートした。「おだわらTRYプラン（第５次小田原市総合計画）」は，豊かな資源に恵まれ，さまざまな可能性に満ちあふれた小田原の地で，緩やかな経済成長と人口減少の時代においても，向こう50年100年と歩みを続けていくことのできる地域モデルをつくる道筋を明確にし，その実現に向けて市民と行政が目標を共有して共に取り組んでいくための計画である。基本構想・基本計画・実施計画で構成し，地区自治会連合会の区域ごとに作成した地域別計画と一対で小田原市のまちづくりを進めていく。

わが国が人口減少社会に入った中で，住みよい・訪れてよいまちづくりを進めること，そして，「新しい公共をつくる」「豊かな地域資源を生かしきる」「未来に向かって持続可能である」という新しい小田原へ３つの命題に取り組むことにより，『市民の力で未来を拓く希望のまち』の実現を図っている。この将来都市像を実現するために「いのちを大切にする小田原」「希望と活力あふれる小田原」「豊かな生活基盤のある小田原」「市民が主役の小田原」の４つのまちづくりの目標を定め，総合的かつ計画的なまちづくりを進め，「自分たちのまちは自分たちでつくる」という気運を高め，市民と行政とが情報を共有しながらそれぞれの役割に応じた取り組みを進めることで，市民の力や地域の力が十分発揮できる質の高いまちをつくっている。

令和２年は市制施行80周年にあたり、記念事業で活用するロゴマークが決定した。またこれを記念して郷土文化館で、市制施行までの道のりや市制施行前後の小田原の様子などを写真やパネルなどで紹介するミニ展示が行われた。

現在「世界が憧れるまち“小田原”」の実現に向けた「2030ロードマップ」を基に、令和4年度からスタートする新たな総合計画を策定中である。

３　気　候

項目 月	平均気温（日平均）		降　水　量（月合計）	
	平　　年	令和２年	平　　年	令和２年
１月	５．３℃	６．９℃	８３．７㎜	１３８．０㎜
２月	６．１	７．９	８９．５	６８．５
３月	９．２	１０．８	１７５．６	１９５．０
４月	１４．０	１３．０	１８１．７	２３４．５
５月	１８．２	１９．３	１８２．２	８８．０
６月	２１．３	２３．０	２１９．３	２３６．５
７月	２５．２	２４．０	２１６．０	５９１．０
８月	２６．４	２８．２	１６７．２	２８．５
９月	２３．０	２４．１	２４８．７	２５３．０
１０月	１７．８	１７．０	２３８．７	２０４．０
１１月	１２．６	１３．５	１１９．５	９．５
１２月	７．８	７．２	７４．７	２０．０
年　間	日平均 １５．６	日平均 １６．２	合計１９９６．５	２０６６．５

平年値……平成３年～令和２年の平均値（横浜気象台ホームページより）

○　小田原市での気象の極値（令和３年１月１日現在）

気　　象	極　　値	
１日　降雨量	２４０．０　㎜	令和　元年１０月１２日
１時間降雨量	７７．５　㎜	平成２２年　９月　８日
月 降 水 量	８０９　　㎜	平成１６年１０月
最 高 気 温	３６．６　℃	平成２３年　８月１８日
最 低 気 温	－８．０　℃	昭和５９年　２月　７日

統計期間（昭和51年１月～令和３年１月）

Ⅱ　人　口

１　令和３年１月１日現在の小田原市の人口　（小田原市総務部総務課統計月報）

男　　９１，７２７　人
女　　９７，１４０　人
合計　１８８，８６７　人（令和２年１月１日より１，１５５人減少）
世帯数　８２，４７３　（令和２年１月１日より５５６世帯増加）

２　年齢３区分別人口（令和２年１月１日現在）（県人口統計調査）

■総数　１９０，０２２人 （男９２，３５６人　女９７，６６６人）	総　数	男	女
０歳　～　１４歳	２１，０２４	１０，８４４	１０，１８０
１５歳　～　６４歳	１１０，７３６	５５，８９５	５４，８４１
６５歳　～	５７，０３９	２４，９３５	３２，１０４
年齢不詳	１，２２３	６８２	５４１

■割合（%）

年　齢	総　数	男	女
０歳　～　１４歳	１１．１	１１．８	１０．５
１５歳　～　６４歳	５８．７	６１．０	５６．５
６５歳以上	３０．２	２７．２	３３．１
平均年齢（歳）	４８．８	４７．２	５０．２

年齢不詳を除いた年齢３区分別の構成割合

３　小田原市の人口の推移

西暦	年号	世帯数	人口	備　　考
1872	明治 5年	2,995	13,306	明治の初期
1889	22年	3,000	19,000	町政施行時（推計）
1911	44年	3,684	20,031	明治の末期
1925	大正14年	5,048	25,315	大正の末期
1935	昭和10年	5,538	27,746	丹那トンネル開通の翌年
1940	**15**	**10,749**	**54,699**	**市制施行時**
1945	20	12,627	64,577	終戦の都市の１１月１日人口調査
1948	23	15,175	73,638	８月1日　常住人口調査　４月１日　下府中村合併
1950	25	15,465	75,334	10月1日　国勢調査　12月8日　桜井村合併
1955	30	22,295	113,099	10月1日　国勢調査　豊川村，酒匂村他４町村合併
1956	31	23,074	116,698	10月1日　国勢調査　4月1日　曽我村の一部合併
1965	40	33,649	143,377	10月1日　国勢調査
1970	45	40,169	156,654	10月1日　国勢調査
1971	46	42,492	166,211	10月1日　現在　　4月1日　橘町合併
1975	50	47,253	173,519	10月1日　国勢調査
1980	55	51,809	177,467	10月1日　国勢調査
1985	60	56,193	185,941	10月1日　国勢調査
1989	平成元年	60,425	191,855	10月1日　現在
1990	2	61,360	193,417	10月1日　国勢調査
1995	7	67,916	200,103	10月1日　国勢調査
1996	8	68,664	200,290	10月1日　現在
1997	9	69,267	200,171	10月1日　現在
1998	10	70,087	200,329	10月1日　現在
1999	11	71,081	200,692	10月1日　現在
2000	12	71,532	200,173	10月1日　国勢調査　11月特例市
2001	13	72,221	199,886	10月1日　現在
2002	14	72,905	199,616	10月1日　現在
2003	15	73,588	199,290	10月1日　現在
2004	16	74,303	198,851	10月1日　現在
2005	17	74,291	198,741	10月1日　国勢調査
2006	18	75,581	198,951	10月1日　現在
2007	19	76,520	198,881	10月1日　現在
2008	20	77,266	198,698	10月1日　現在
2009	21	78,013	198,341	10月1日　現在
2010	22	77,793	198,327	10月1日　国勢調査
2011	23	78,305	197,733	10月1日　現在
2012	24	78,981	196,880	10月1日　現在
2013	25	79,656	196,073	10月1日　現在
2014	26	80,289	195,125	10月1日　現在　施行時特例市
2015	27	79,120	194,086	10月1日　国勢調査
2016	28	79,872	193,313	10月1日　現在
2017	29	80,642	192,407	10月1日　現在
2018	30	81,087	191,181	10月1日　現在
2019	31（R1）	81,748	190,109	10月1日　現在
2020	令和2年	82,309	189,014	10月1日　国勢調査
2021	3	83,331*	188,401*	10月1日　現在

＊R2年国勢調査確定値の公表（R3.11予定）まで、暫定値としてH27年国勢調査を基準として集計している

Ⅲ　行　政

１　執行機関【歴代市長】

代	市　長　名	就任年月	備　考
初	益　田　信　世	昭和１６年3月	官選
2	鈴　木　英　雄	１９年6月	〃
3	佐　藤　謙　吉	２１年6月	〃
4	佐　藤　謙　吉	２２年4月	公選
5	鈴　木　十　郎	２４年2月	〃
6	鈴　木　十　郎	２８年2月	〃
7	鈴　木　十　郎	３２年2月	〃
8	鈴　木　十　郎	３６年2月	〃
9	鈴　木　十　郎	４０年2月	〃
10	中　井　一　郎	４４年2月	〃
11	中　井　一　郎	４８年2月	〃
12	中　井　一　郎	５２年2月	〃
13	中　井　一　郎	５６年2月	〃
14	山　橋　敬一郎	６０年2月	〃
15	山　橋　敬一郎	平成　元年2月	〃
16	小　澤　良　明	4年5月	〃
17	小　澤　良　明	8年5月	〃
18	小　澤　良　明	１２年5月	〃
19	小　澤　良　明	１６年5月	〃
20	加　藤　憲　一	２０年5月	〃
21	加　藤　憲　一	２４年5月	〃
22	加　藤　憲　一	２８年5月	〃
23	守　屋　輝　彦	令和　2年5月	〃

２　議決機関

市議会議員定数２７人（平成30年12月18日　条例の一部改正による）

現在の市議会議員は平成31年４月選出

3　財政

令和３年度当初予算額

総額　1,625億9198万7千円
- 一般会計　694億円
- 特別会計　606億5,577万2千円
- 企業会計　325億3,621万5千円

教育費　71億6,013万9千円　（一般会計予算の約10.32%，伸率 17.08%）

Ⅳ　産業・経済

1　農　業

年　次	総農家数	専業農家数	兼業農家数	農業世帯員数	農地面積
昭和５０年	4,055　戸	510　戸	3,545　戸	14,382　人	2,810 ha
５５年	3,913	545	3,368	11,763	2,645
６０年	3,727	470	3,257	10,456	2,289
平成　２年	3,268	325	2,943	9,949	2,063
７年	2,926	368	2,558	8,369	1,841
１２年	2,645	270	1,497	7,799	1,601
１７年	2,447	331	1,200	6,634	1,263
２２年	2,297	359	993	5,429	1,167
２７年	1,987	413	767	4,258	1,047

2　工　業（従業員数４人以上の事業所について）

年　次	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
平成　２年	５７８	２３，８７２	１０，９２５億円
３年	５５０	２４，３６４	１１，２５０
４年	５２７	２３，５２７	１０，７５６
５年	５２８	２１，９２１	９，６１７
６年	４８７	２１，１６１	９，１２９
７年	４８７	２０，７５５	８，８２８
８年	４４３	１８，８７１	８，８１８
９年	４２６	１８，０８７	８，１０３
１０年	４６０	１７，５７８	８，３８８
１１年	４３３	１７，０８２	８，２３８
１２年	４３６	１５，９４９	８，７８４
１３年	３９４	１５，５５５	８，８２５
１４年	３６７	１４，７４７	９，４７１
１５年	３７２	１４，４６４	８，７３０
１６年	３３８	１３，７５８	８，３４１
１７年	３６０	１３，４８７	８，３６９
１８年	３３６	１２，５８９	７，８４３
１９年	３３３	１２，６１０	８，４４４
２０年	３３８	１２，３３２	８，１６９
２１年	３０４	１１，６４８	６，２９７
２２年	２９７	１１，４１９	６，７３４
２４年	２６７	１２，１８１	６，９５１
２５年	２５８	１１，６２１	６，０１５
２６年	２４７	１０，８９０	５，７６０
２９年	２１８	９，４９８	５，９９８
３０年	２１７	１０，４２６	６，０２８
令和元年	２０９	１０，００１	６，０７０

３　商　業

年　次	店　舗　数	従業者数	年間商品販売額
昭和４７年	３，６４５	１８，０５４	１，４０９　億円
４９年	３，８３１	１８，８４８	２，０８９
５１年	４，２４１	２０，０１５	２，８５５
５４年	４，５８９	１９，６２２	３，７４２
５７年	４，８０９	２０，４５７	４，２２３
６０年	３，２７９	１６，４３８	４，４４２
６３年	３，４４２	１９，３４２	５，４３７
平成　３年	３，３８２	１８，８９８	６，９３６
６年	３，２５８	２０，８４９	５，８９９
９年	２，９９８	１９，５１５	５，３１０
１４年	２，８３３	２１，０６６	４，７２４
１６年	２，６５８	１９，０１４	４，５９０
１９年	２，４６０	１８，４５５	４，２８９
２４年	１，７４２	１２，６６２	３，６０５
２６年	１，６７３	１３，６９１	３，５３１
２８年	１，８４８	１５，７４２	４，１３１

４　水産業　　（注）＊については資料なし

年　次	漁業就業者数	地元漁船登録数	地元船水揚げ状況　t	全市水揚げ状況　t
８年度	＊	９０隻	１，７４１	１，９９８
９年度	＊	８９	１，３７３	１，４６８
１０年度	＊	８７	１，８６２	１，９４０
１２年度	６４人	８６	１，６９０	１，７７３
１４年度	＊	８０	２，３６８	２，４０４
１５年度	＊	８４	２，１２８	２，１７７
１６年度	＊	８５	２，５１９	２，５５１
１７年度	＊	８５	３，０６５	３，１０９
１８年度	＊	７９	２，１９６	２，２２６
１９年度	＊	７７	２，７５４	２，７７８
２０年度	１００人	７７	３，５６９	３，５８８
２１年度	＊	７６	２，７６９	２，７９６
２２年度	＊	６８	３，２３７	３，２６３
２３年度	＊	７６	３，６７４	３，７０７
２４年度	＊	７６	２，３２７	２，３６３
２５年度	８０人	８１	３，１５９	３，６２９
２６年度	＊	７９	２，７４６	３，１４０
２７年度	＊	７６	２，３７８	２，７３４
２８年度	＊	７５	２，０３７	２，２８２
２９年度	＊	７０	１，９２９	２，２３０
３０年度	８１人	６９	１，６５５	１，８９６
令和元年度	＊	６７	１，６２４	１，８５８

５　名　産　品

・小田原のかまぼこ，梅，梅干し，みかん，足柄なし，小田原ひもの，
酒匂川･早川の鮎，塩辛，和菓子，漬物，ワイン等

６　伝 統 産 業

・木象嵌，寄木細工，組木細工，小田原漆器，小田原ちょうちん，砂張鋳物，
足柄刺繍

７　伝 統 芸 能

・相模人形芝居　・小田原囃子　・鹿島踊り　・奉射際　・寿獅子舞

８　郷土の偉人

・北条　幻庵（文化人；１５４３～１５８９）
・林　佐太郎（農政家；１７２７～１８０１）
・二宮　尊徳（農政家；１７８７～１８５６）
・大友亀太郎（農政家；１８３４～１８９７）
・北村　透谷（詩　人；１８６８～１８９４）
・北原　白秋（詩　人；１８８５～１９４２）
・辻村　伊助（登山家；１８８６～１９２３）
・牧野　信一（作　家；１８９６～１９３６）
・福田　正夫（作　家；１８９３～１９５２）
・井上　康文（作　家；１８９７～１９７３）
・尾崎　一雄（作　家；１８９９～１９８３）
・川崎長太郎（作　家；１９０１～１９８５）
・川口　広蔵（治水家；１７４９～１８４０）
・田中　丘隅（農政家；１６６２～１７２９）
・蓑　笠之助（農政家；１６８７～１７７１）

Ⅴ　教育文化・福祉

1　公立学校状況

令和３年５月１日現在

	幼　稚　園			小　学　校			中　学　校		
	園　数	園児数	教諭数	学校数	児童数	教員数	学校数	生徒数	教員数
平成元年度	6	726	40	26	14,434	598	12	8,377	397
平成５年度	6	560	34	25	12,993	572	12	7,035	375
平成７年度	6	502	31	25	12,572	571	12	6,537	364
平成８年度	6	496	29	25	12,159	578	12	6,515	371
平成９年度	6	516	29	25	11,819	563	12	6,415	363
平成10年度	6	517	28	25	11,665	556	12	6,181	352
平成11年度	6	580	28	25	11,589	539	12	5,935	337
平成12年度	6	593	28	25	11,350	534	12	5,745	331
平成13年度	6	559	25	25	11,248	547	12	5,717	347
平成14年度	6	568	25	25	11,250	553	12	5,559	337
平成15年度	6	566	26	25	11,109	559	12	5,420	342
平成16年度	6	557	27	25	11,045	583	12	5,300	340
平成17年度	6	580	28	25	10,964	568	12	5,266	336
平成18年度	6	600	28	25	11,048	565	12	5,138	338
平成19年度	6	583	27	25	10,911	568	12	5,151	335
平成20年度	6	547	27	25	10,878	569	12	5,154	332
平成21年度	6	521	27	25	10,857	580	12	5,212	329
平成22年度	6	484	27	25	10,635	570	11	5,108	323
平成23年度	6	482	28	25	10,425	549	11	5,075	318
平成24年度	6	464	26	25	10,048	562	11	5,105	324
平成25年度	6	497	25	25	9,866	543	11	4,999	320
平成26年度	6	480	25	25	9,606	563	11	4,980	325
平成27年度	6	443	25	25	9,396	562	11	4,880	326
平成28年度	6	412	26	25	9,255	574	11	4,857	318
平成29年度	6	365	26	25	9,131	571	11	4,656	314
平成30年度	6	304	29	25	9,089	578	11	4,483	311
令和元年度	6	279	26	25	9,011	579	11	4,326	315
令和２年度	6	236	27	25	8,817	580	11	4,298	320
令和３年度	6	198	22	25	8,671	579	11	4,290	306

（注）小学校および中学校の教員数は本務者のみ

2　市内の学校数（令和３年５月１日現在）

幼　稚　園	１６（公６，私１０）
幼保連携型認定こども園	１（私　１）
小　学　校	２６（公２５，私　１）
中　学　校	１３（公１１，私　２）
高等学校	７（公　４，私　３）
特別支援学校	１（公　１）
専修学校	４（私　４）
短期大学	１（私　１）
大　　学	１（私　１）

３　教育文化施設等

文化都市小田原にふさわしい生涯学習センターけやき（旧中央公民館）が，市制４０周年記念事業の一つとして昭和55年度に完成し，昭和63年には「二宮尊徳生誕　２００年祭」を記念して尊徳記念館が新しく建設された。これにより市民の教育文化活動も一段と活発になり，研修や学習の場，芸術・文化振興のための発表の場として，社会教育団体や文化団体等，市民各層から盛んに利用されてきた。

平成６年８月には鴨宮に市民待望の近代的なかもめ図書館（現中央図書館）が開館し，本やＣＤ，ビデオを自由に利用できる身近な学習の場として，多くの市民に活用されている。さらに，同年11月には小田原文学館が，平成７年３月には県立生命の星・地球博物館が開館した。

体育施設では，平成２年10月に小田原球場がオープンし，また，平成９年１月には小田原市総合文化体育館・小田原アリーナが，平成９年７月には小田原テニスガーデンが完成した。さらに，平成29年４月には，城山陸上競技場が全天候型にリニューアルオープンし，多様なニーズに応えるスポーツ施設の一層の拡充を推進している。

地域センターとしては，平成８年１月に川東タウンセンター「マロニエ」が，平成17年８月には城北タウンセンター「いずみ」が，平成19年８月には橘タウンセンター「こゆるぎ」がオープンした。また、平成27年11月には市民や市民活動団体，事業者など様々な人が交流・連携する施設として「おだわら市民交流センターＵＭＥＣＯ（うめこ）」がオープンした。

観光施設としては，平成28年５月に，大規模改修された小田原城天守閣が一般公開され，令和元年４月には，小田原城歴史見聞館をリニューアルした「NINJA館」がオープンし，多くの観光客でにぎわいを見せている。

令和２年４月には，子ども・若者の発達段階，生活環境，特性等に応じた発達及び健全育成に関わる支援その他の取組を，福祉と教育とが一体となって総合的に行うことにより，将来を担う子ども・若者の健やかな成長に資するため，乳幼児（０歳）から学齢期・青壮年期（３９歳）における相談・支援機能を集約した施設として「おだわら子ども若者教育支援センター（はーもにぃ）」が設置された。また，同年10月には小田原駅東口に整備された広域交流施設「ミナカ小田原」の６階に，小田原駅東口図書館と子育て支援センターが開館した。

令和３年９月には小田原城を中心としたまちづくりの拠点として、劇場と、にぎわい廊（小田原市観光交流センター）で構成されている「小田原三の丸ホール」がオープンした。

Ⅵ　その他の統計

1　観光（令和２年中）

	観光客数　（人）
総数	３，７０５，２４８
うち　日帰り	３，４２７，９９５
宿　泊	２７７，２５３
小田原城天守閣入場者数	３０２，３７０

2　交通（令和元年度）

	小田原駅乗車人員　（人）
新幹線	３，９５８，９９８
東海道本線	３３，４６０（一日平均）
小田急線	１１，３７３，４２８
箱根登山線	３，３３８，６３０
大雄山線	３，１２０，６８０

3　ごみ処理（令和２年度）

	ごみ処理量（t）
総処理量	６６，８６１
焼　　却	４９，８９１
埋立・溶解	７０７
資源化	１６，２６３

＊１日一人当たりのこみ排出量　９８９ｇ

4　公園（令和３年４月１日現在）

都市公園数総数	１５２か所	総面積	１０２．０８　ha
街区公園	１３９	街区公園	１３．５４
総合公園	３	総合公園	３３．５４
運動公園	１	運動公園	１２．４１
特殊公園	４	特殊公園	２５．３８
広域公園	１	広域公園	１５．４０
緑　　道	４	緑　　道	１．８３

＊広域公園「県立おだわら諏訪の原公園」の開設済み面積（１５．４ha）を含む。

＊端数処理のため合計は一致しない。

参考，引用資料

・県 勢 要 覧		神奈川県企画部統計課
・小田原市統計要覧	令和２年度版	小田原市総務部総務課
・広報「小田原」		小田原市広報広聴室
・小田原文化がいど		小田原市教育委員会社会教育課
・小田原名人図鑑		小田原地場産業振興協議会
・小田原名物図鑑		小田原地場産業振興協議会
・小田原の教育	令和３年９月	小田原市教育委員会教育総務課
・小田原市ホームページ		
・横浜地方気象台ホームページ		
・農林水産省ホームページ		
・うおいちば		小田原市公設水産地方卸売市場

発 行 所	小田原市教育研究所
発行責任者	所長　　石井　政道
初版発行	昭和48年(1973年)12月20日
発 行 日	令和３年(2021年)12月20日